

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No354

2023.12/08 (金曜) 15:00 発表

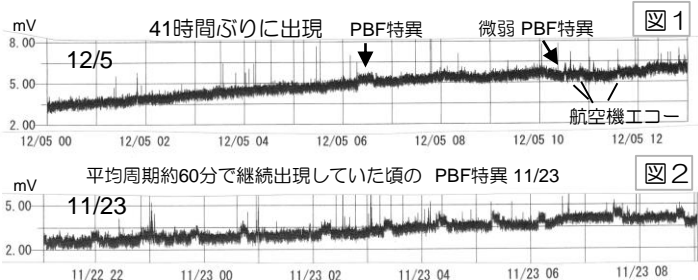
八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所

Yatsugatake South Base Observatory 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。No1778に関しては解説資料32~35頁参照

No1778 長期継続前兆変動 続報

12/5.5 PBF特異 終息の可能性極めて高い



2024年 5月24日 ± 3日 No1778 対応地震発生の可能性



CH26-PBF特異は図3の様に過去には観測されたことが無い、周期が120分まで伸びる変化となり、11/26以降は断続的出現となりました。12/2は3~6時間間隔で3回のみ出現となり、静穏基線が続き、41時間ぶりに図1のとおり2回(2回目は航空機工コーと識別が困難なほど微弱)PBF特異変動と同様な変動が出現し、その後は再出現もなく静穏基線が継続しています。PBF特異変動は周期的出現が特徴ですが、12/2~12/3は一日に数回の出現で周期性も認められなくなり、静穏基線が続く中で12/5に2回のみ出現となりました。その後も再出現がないことから、PBF特異変動は12/5.5に終息した可能性が極めて高いと認識されます。

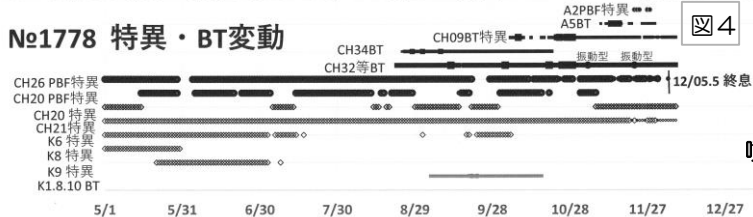
2022.07/28.4 極大→2023.12/05.5 PBF 特異終息の場合→2024.05/24 ± 3 発生の可能性

→2022.09/03.5 極大の場合で→2024.05/24 ± 発生の可能性

→2022.09/03.5 初現の場合で→2024.05/24 ± 発生の可能性

2022.7/28.4 PBF極大に対し2023.12/5.5 終息の関係を、Tmap:Tpp=3.9:1 経験則で計算すると、2024年5月24日 ± 3日 にNo1778長期継続前兆変動の対応地震発生の可能性が示唆されることとなります。これが正しい場合には、図4上に記したどちらかの時期に現在継続中の特異変動が終息する可能性が示唆されます。これを観測して確認予定です。

No1778 特異・BT変動



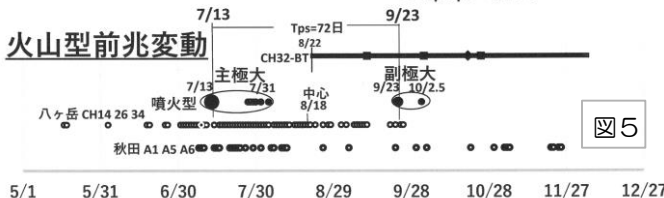
噴火型前兆変動は噴火を示すのではなく前兆極大の可能性

7/13-顕著・7/31中心-弱いと、9/23-顕著・10/2.5-弱いという関係で、火山噴火型前兆変動が出現しました。

噴火型前兆変動は1日だけ出現の場合は火山近傍での地震活動。複数日出現の場合は噴火活動となることが過去例です。本年7月~10月に出現した二つのグループ的出現では、各々複数日の噴火型が観測されました。過去例のTmap日数で活動が確認されなかったことから、これらはNo1778関連として、対応地震発生に伴い、震源付近の火山で噴火活動が生じる可能性を考えました。しかし噴火型の二つのグループ的出現の中心時期から、八ヶ岳のCH32-BT(基線幅増大変動)が継続出現するようになり、これは噴火活動の可能性を示すものではない認識と

7/13 + 72 × 4.4 → 2024.05/24 ± 4

Tmap:Tps = 4.4 : 1



※通常のBTとは異なり、前兆変動途中で出現するBTをBT特異とする

※噴火型火山前兆で主・副極大型を示す例はこれが初めて。主極大も副極大も顕著な変動日で計算すると調和する。

となりました。2016年に発生した熊本地震は、BF変動も観測されましたが、火山近傍地震前兆変動も多々観測され、発生時期を示す極大はBF変動ではなく火山性活動前兆変動でした。熊本地震は火山近傍での大型地震活動でした。今回のNo1778関連で出現した火山性前兆変動も噴火型というのは初めての体験となりますが、No1778が火山近傍での大型地震であることから、前兆変動極大として噴火型火山前兆変動が出現した可能性を考えています。噴火型は図5のとおり、主極大・副極大型と認識され、主極大が長く、副極大が短い関係から主・副極大間=TpsとしたときTmap:Tps=4.4:1の関係が考えやすく、2024年5月24日 ± 4 発生の可能性が示唆され、PBFからの推定時期と調和します。

- ◆ 推定領域：図6の太線領域内
- 斜線領域：可能性が考えやすい領域
- 火山近傍領域の可能性が考えやすい
- ◆ 推定規模：M8.0 ± 0.3
- ◆ 推定時期：2024.5/24 ± 3の可能性
- 今後の観測で修正の可能性も有
- ◇ 推定地震種：震源浅い陸域地殻
- ◇ 推定発生時刻：午前09時 ± 2 時間
または 午後06時 ± 3 時間

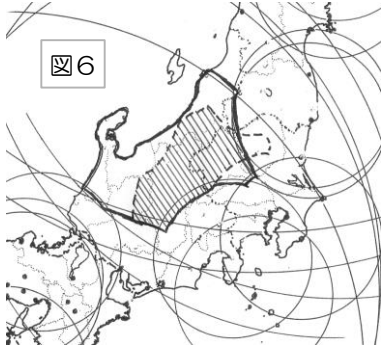


図6の太線領域内はPBF特異・BT特異からの推定域で点線内は以前からの推定領域です。PBF特異・BT特異の影響局推定が正しい場合は、朽木県内が推定域から外れますが一応含めます。太線域内を大枠推定域、斜線域は可能性が考えやすい推定領域です。火山近傍領域の可能性が高い推定は変わりません。特異変動が図4上部の時期に終息するか観測し、現在の推定発生時期が正しいか検証予定です。